

第2回創設・育成研修会を開催しました！



1月26日（金）山口南総合センターにて、第2回創設・育成研修会を開催しました。講師に一般社団法人日本コンディショニング協会代表理事の有吉与志恵氏をお迎えし、「不調の原因は姿勢の歪み！歪みを整えるコンディショニング講座」をテーマに講義と実践を行いました。

実践では、足の小指から指わけをして足首回しをしたり、膝を伸ばして手で脚全体をクルクルトントンしたり、息をハッハッと吐きながらレッグカールを行ったりしました。実践後、左右を比べると、脚の長さや地面をしっかりと踏めている感覚に違いがあることなどを実感することができたようです。

参加者からは、「自分の身体を知る上でためになった。全ての年代、あらゆるスポーツ等に当てはまる内容だったので、とてもよかった。イベントや指導者の講習会等で取り入れたい。」などの感想をいただきました。



学んだことをすき間時間に継続して実践してみてくださいね。

県央地域スポーツフェスタが開催されました！



2月3日（土）に山口南総合センターアリーナを会場に、県央地域スポーツフェスタ「いろいろな種目を体験しよう！～バドミントン・アーチェリー・ダーツ体験～」が開催されました。今回は、総合型地域スポーツクラブの周知やクラブ同士の交流のほか、多種目のスポーツ

にふれ合う機会の創出やスポーツを楽しむ心や興味関心の喚起もねらいとしました。

バドミントンにはUBEバドミントン部OB、アーチェリーには山口市アーチェリー協会、ダーツには大田大介プロを講師として招聘し、バドミントン80分、アーチェリー40分、ダーツ40分の交代制とし、3種目すべてを体験していただきました。

小学校低学年から大人まで幅広い年齢層で、あまり運動をしていない人や日頃は違うスポーツをしている子どもたちも参加していました。

バドミントンを久しぶりにするという大人の方や初めてする子どももいましたが、ラケットの持ち方、足の運び方、打ち方など丁寧に教えていただき、何度も空振りしながら、楽しそうにシャトルを打ち返していました。最後に誰かが当てるまで終わらないシャトルの筒当てがあり、グループが一丸となって必死に当てようと頑張っていました。

わくわく（輪く和く）通信

山口県生涯スポーツ推進センターだより

Vol. 54

2024年

1月3月

合併号

スポーツくじ





アーチェリーとダーツは初めて体験する方がほとんどだったようです。アーチェリーもダーツもスポーツに苦手意識のある人でも始めやすく、老若男女楽しむことができる種目です。

アーチェリーは、初めに用具の取扱い方法から射法の基本を教えていただき、実践に移りました。真剣な表情で的を狙い、弓を引くみなさんの姿はとて

もかっこよかったです。狙ったところに射る難しさと、アーチェリーの楽しさを体験できたようです。

ダーツは、初めは的から外れてしまう人も見られましたが、何度か投げるうちにきちんと命中していました。ダーツボードには1から20までの数字が並んでいて、的の中心に近いところほど高得点で、外側に行くほど得点は低くなります。通常の得点の2倍や3倍になるエリアもあり、3倍で60点になるところが最高点です。なかなか同じ軌道で投げることは難しかったようですが、小さなダーツを的に向かって投げるというシンプルなゲームなので、すぐに熱中されていました。中心の50点に命中した際には子どもも大人も喜び、周りで見ている人たちからも拍手が起こっていました。

参加者からは「またやりたい！楽しかった！なかなかする機会がない種目を体験できてよかった」という声を多く聞くことができ、満足していただけた内容となったようです。

今回のイベントでは、会場近隣の山口市及び防府市の地域へのチラシ配付と各クラブでの周知を行いました。なかなか申込者数が伸びず、改めて集客の難しさを実感したのではないのでしょうか。市町広報への掲載やチラシでの周知期間も考えた上で、会場や講師の調整等、計画的に進めていくことが大事なのではないかと感じました。



地域スポーツクラブ推進団体連絡会議の報告

令和5年度を迎え、感染症拡大の懸念が解消されつつある中、学校部活動の地域移行に加え、子どもの体力低下、地域活動への関心低下などの課題を解決していくために、安心安全な地域のスポーツ環境の基盤を強化するとともに、総合型クラブに対する支援を行うことを目的として、3年目となる国庫補助事業「地域スポーツ推進体制基盤強化事業」を受託しました。県内のクラブ関係者、学識経験者が集まり、連絡会議を3回開催し、いろいろな事例を基に、基盤強化のための提言などをまとめることができました。これまで、アンケートなどを実施したり、分析したりして、その結果を冊子にしてお配りいたしました。今年度は、右のように、各クラブの紹介集を作成することができ、5年ぶりの改訂となりました。今回の紹介集には、最後のページに索引がついています。県内を3つの地域に分け、それぞれに種目ごとの索引がつけてあり、興味関心に応じて、自分に合う種目やプログラムを見つけやすくしてあります。地域住民のみなさんに、この紹介集をご披露していただき、自分のクラブだけでなく、県内のクラブの活動をアピールしていただければと思います。



この会議では、

①学校部活動との連携、②スポーツによる地域活性化、③子どもの体力向上を議題の3本柱とし、「指導者の確保」「部活動の地域移行」に加えて、幼児期からの運動習慣形成も協議の観点としました。

特に、総合型クラブへの期待を含めて、次のような意見がありましたので、その一部を紹介します。



- ① 地域に根差した活動として、クラブを必要としている中高年者が何に困っているのか、何をやりたいのかを問いながら、基盤強化を進めたい。
- ② 指導者の確保に問題がある。地域クラブに関わる大会の運営に、教員とクラブ関係者がしっかり参加して意見を述べる場が必要である。
- ③ 競技志向ではない子どもたち、競技の楽しさを知らない子どもたちが多くいる。気軽に集まって、気が向いたら運動できるようなマインドも必要である。
- ④ 未就学児の加入の促進も必要である。幼児教室を開いて、運動やスポーツのきっかけづくりがあれば、体力の向上にもつながる。総合型クラブやスポーツ少年団の役割の一つでもある。
- ⑤ 研修会が必要である。資格取得の研修会もさることながら、マネジメントに関する新たな研修・講習の場をもっていきたい。



人がつながる 人でつながる 人がつくる

地域に根ざしたクラブの経営や活動を支えるのは人…このコーナーでは、コンシェルジュがインタビューをして、総合型地域スポーツクラブにかかわる人を紹介していきます。

すげえちゃ・高泊 事務局 中村夏江 氏

今回は、「すげえちゃ・高泊」の事務局に就任された中村夏江さんにインタビューしました。北九州フィルハーモニーを迎え、クラシックコンサートのイベント準備に追われる中、わずかな時間をさいていただきました。

このクラブの事務局になるきっかけは？

秋まつりのイベントで、ハンドメイドの出店をしていて、井上会長に出会ったことが始まりです。その後、地域の行事などでも幾度となく会うようになって、井上会長から熱量たっぷりのお誘いを受けたのが、きっかけです。

山陽小野田市出身ということですが、地域への思いは？

若いころにバスケットボールを少しだけやりましたが、スポーツよりも音楽の方に興味をもっていました。小さい時から人との関わりが大好きで、このクラブのみなさんの元気な姿を見ると、なおさら私も何かしなくてはと思っています。このクラブに関わる以前からも、大学生のサークル活動にも顔を出したり、世代の違いを感じながらいろいろな人と話したりする自分が好きです。自分でも変わった人間だなと思うことがあります。

事務局1年目、どんな楽しいことがありましたか？

何よりも、シニア世代の友達ができただけです。高齢化していく地域には、総合型地域スポーツクラブのようなクラブが必要だと気づけたこともあります。中学生と小学生の子どもをもつ親として、子どもたちの活動する場づくりをしていきたいとも思っています。来年度、山陽小野田市に、市民活動センターができます。このクラブも市民活動の一つですし、その他、いろいろな団体や組織があります。それぞれの持ち味の相乗効果で、もっと魅力ある山陽小野田市になりそうです。そんな夢を描くことも楽しさなのです。

いろいろな場所に顔を出して、子育て世代の仲間を集めようとパワフルに動いていらっしゃる中村さん。アプリで名簿管理をしたり、ホームページをリニューアルしたり、やることいっぱい笑顔で答えられていました。若い事務局を迎えて、どのように変化していくのかが楽しみです。



総合型地域スポーツクラブ 訪問日記

クラブ名	イベント名	訪問日	訪問者
一般社団法人菊川スポーツクラブ	D スポ菊川	1月21日(日)	岡村睦美

今回は、一般社団法人菊川スポーツクラブが下関市委託事業として行っているD スポ菊川の様子を拝見させていただきました。

下関市では、今年度、運動部活動改革実証事業「D-Sports(Divers Sports)」略称『D スポ』が行われています。少子化による部活動の継続が困難、部活動の選択肢の減少など、今後も部活動の縮小が予想される中で、地域において子どもたちがスポーツにふれることができる環境を整備することが重要な課題と考えておられ、新たな地域クラブ活動の設立の可能性や生徒のニーズ、運営に係る課題等を把握するために、10月末から『D スポ』がスタートしました。実証事業の中で4つの運営主体が指定されており、運営主体とエリアは以下の通りです。

名称	運営主体	活動エリア(中学校)
D スポ菊川	一般社団法人菊川スポーツクラブ (総合型地域スポーツクラブ)	木屋川・内日・豊田・菊川 豊洋・夢が丘・豊北
D スポチャレンジ	下関市体育協会 (競技種目団体)	日新・向洋・文洋・名陵
D スポR191	下関市公営施設管理公社 (市内公共施設等の管理運営団体)	安岡・吉見・垢田・蓋井
D スポ長府	長府地区まちづくり協議会 (長府地区の交流事業や地域活性化に取り組んでいる団体)	長府・長成

それぞれの団体でどんな種目を行うかを考え、ラグビーフットボール、空手道、ミニトランポリン、ニュースポーツ等、いろいろな種目を体験することができるマルチクラブや、ソフトテニス、バドミントン、バレーボール等、子どもたちのニーズにあわせて単一種目に特化した派生クラブが展開されています。この『D スポ』には、市内中学校の在学であればだれでも参加することができ、また、上記表にある活動エリア外からの参加も可能となっています。

菊川スポーツクラブが主体となっているD スポ菊川は、菊川、豊田、豊浦、豊北の4会場に分かれており、この日は、菊川会場でバレーボール、豊田会場でバドミントン、豊浦会場でインドアモルック、セキレックなどのニュースポーツとソフトテニスが行われました。派生クラブに参加しているのは、もう少し上手になりたいなどの技術の向上やその種目が好きだからといった思いで参加している子どもたちが多く、マルチクラブへ参加しているのは、いろいろなスポーツにチャレンジしてみたい、ゆるく運動をしたいなど、ちょっとやってみたい！と思う子どもたちがほとんどです。

この事業を通して、子どもたちがいろいろな志向を持っていることだけでなく、部活動に入っていない子どもや不登校ぎみの子どもなどの活動の場となっていることが見えたことが大きな収穫だったようです。今後の実証事業や部活動地域移行にもつながっていくのではないかと感じました。

参加者の保護者が、「部活動が時間的にも内容的にも物足りなかったり、顧問が専門ではなかったりする中で、このような場があることはありがたい、家から会場までの距離があるので、子ども自身が通える範囲にクラブがあったら助かる」とおっしゃっていました。

菊川スポーツクラブクラブマネジャーの井上登代子さんにこの事業を通して感じていることをお聞きしました。「種目の設定や講師・スタッフの確保など、総合型クラブのノウハウが活かされていることは多くあります。講師・スタッフについては、現在もクラブでお世話になっている人や知り合いを通じて確保することができました。今は、まだ部活動が行われているため、地域移行ということにピンときていない方が多いように感じています。今後どのようにすれば子どもたちの活動の場をつくることができるかを行政、学校、地域などのいろいろな関係者と一緒に考えていけたらいいなと思っています。」とお話いただきました。

部活動地域移行については皆さんも関心のあることだと思います。現在、各市町の行政が協議会等を設け検討が始まっています。総合型クラブを運営されている皆さんだからこそできることや思いがあるのではないのでしょうか。関わり方や協力できそうなことなど、少し考えてみることでこれからのクラブ運営や活動にも新たな発見があるかもしれません。



講師は専門の指導者 バドミントン



いろいろな種目を体験
インドアモルック

【生涯スポーツ推進センター問い合わせ先】

央部生涯スポーツ推進センター(山口県スポーツ協会)
TEL 083-933-4697 FAX 083-933-4699



クラブアドバイザーは、スポーツ振興くじ(toto) 助成を受けて活動しています。